くすくす

ーまなび・くらし・つながりー

2021年1月号

No.92

名前『くすくす』の由来は、「くすくす談笑する様子」と「すくすく育つ」をかけています。

見て！見て！うちの〇〇ちゃん

「ゴンちゃんとレオンちゃん」

私が高校生の時、家に帰ると箱に入った生まれたばかり子猫がいました。話を聞くと近所の溝に落ちていたそうで、目も見えておらず、とても弱っていました。それがゴンです。そこから奇跡的に回復して今では８キロちかくのデブ猫（笑）になっちゃいました。もう１匹のレオンは数年前に亡くなった近所の方が飼っていた猫を引き取って家にきました。２匹は飼い始めた時期は全然違いますが、仲良しです。（大学職員　鈴木輝久）

くすっとくらぶ サイトリニューアル!!

くすっとくらぶのサイトをリニューアルしました！
ますます内容を充実していきます！
まなび・くらし・つながりをテーマに日常からグローバルな話題まで幅広く情報をアップしていく予定です。大阪国際学園をより身近に感じてもらえたら嬉しいです。

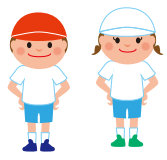
くすっとくらぶ　検索

イベント情報

幼稚園トドラーデー

1/12（火）10：00～11：00
場所：大阪国際大和田幼稚園ホール
正月遊び・幼稚園のバスに乗ってみよう！

1/19（火）10：00～11：00
場所：大阪国際大和田幼稚園ホール
体操教室②
要予約　先着20名　対象：２歳児以上
予約期間：1/12（火）～15（金）
TEL 06-6902-5931
※2歳未満児は園庭で自由に遊んでいただいて結構です。



＊スケジュールは変更になることもあります。

2021年1月1日発行
大阪府守口市藤田町6-21-57
学校法人　大阪国際学園 企画・広報室
koho@oiu.jp

～さらにいろんな情報をご紹介しています。～

facebook.com/kuskusOIEI　Instagram.com/kuskusoiei

https://www.oiei.jp/kusutto/
こちらのホームページでくすくすバックナンバー等をご覧いただけます。

『くすくす』は、みなさまの「くらし」と大阪国際学園の「まなび」をつなげたい、そんな思いを込めたフリーペーパーです。

つながりニュース

■ 経営経済学部が枚方信用金庫による新型コロナ対策安心宣言ステッカー事業に協力。

学生たちは金庫職員と共に、感染対策をした枚方市内の商業店舗の店内 360 度画像や店主による PR 動画、安全対策を説明する動画等を撮影する事業に協力しました。金庫の専用 WEB ページを観たお客様が安心して来店できる仕掛けで、事業者支援（感染対策と経済活動の両立）を担っています。社会的意義も大きく、経営経済学部が推進する「体験型の学び」にふさわしい企画の一つとなっています。
【協力した学生の感想】
「お店側になってコロナ対策を考えることと、お客さんとしてお店側にこういう対策をしてほしいと考えることの両方の立場に立って考える貴重な機会になりました。地元、枚方市のために力になれて良かったです」　佐々木航太さん（経済学科 金融・経済コース３年）

※本学園と枚方信用金庫は 2020 年７月 21 日に包括連携協定を締結しました。

ひらしん安心宣言ステッカー専用WEBページ

本学HP

えすでぃーじーず？

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能でよりよい世界を達成するために掲げた 17 の国際目標 SDGs（エスディージーズ）。今回は「10 人や国の不平等をなくそう」「11 住み続けられるまちづくりを」を取り上げます。「11 住み続けられるまちづくりを」に関連して本学 早川准教授が解説します。

10 人や国の不平等をなくそう

世界には今76億人の人がいますが、世界の富の半分以上がわずか１％の人のものだといわれています。このように富が一部の人たちに集中し続けるなら、どんなに経済が成長したところで貧しい人はずっと貧しいままで取り残されてしまいます。極端な格差を放置せず、富をうまく再分配する仕組みをつくれたら、貧困や飢餓はもちろん、紛争の解決にもつながるでしょう。

また、先進国・途上国を問わず、年齢、性別、障がいの有無、人種、民族、出自、宗教などにもとづく不平等が世界中にあります。しかし、多様な人たちが活躍できる社会でなければ持続的な成長はありません。

中には、ひとつの国の中だけでは解決できない問題もあるので、国家間の取り決めや社会の仕組みを変える努力が必要です。

（抜粋：未来を変える目標　SDGｓアイデアブック）

11 住み続けられるまちづくりを

はじめに、SDGsのアジェンダ（行動計画）を確認したいと思います。それは「我々の世界を変革する」という強いメッセージに表れています。つまり、これまでの生活や経済の延長線上ではなく、「誰一人取り残さないまち」をつくるために大胆な発想と行動の転換が求められているのです。このアジェンダのもとで、それぞれの目標は相互に深く関連しています。

以上を前提として、目標11における「良いまち」のキーワードは、包摂、安全、レジリエンスです。包摂は、社会的に弱い立場にある人びと（女性・子ども・高齢者・障がい者など）が排除されていない状態です。安全で安価な住宅や公共交通機関、緑地や公共スペースへのアクセスなどが掲げられています。レジリエンスは「強靭さ」と訳されますが、個人的には「しなやかさ」の方がしっくりきます。災害時に致命的な被害を負わずに立ち直るための計画・方針や、都市部・周辺部・農村部の良好なつながりなどがSDGsの描く「良いまち」です。

こうした「良いまち」にしていくためには、行政や関連企業だけが努力すればいいのではありません。目標11は、英語では「Sustainable Cities and Communities」ですから、「良いまち」のために自分だけでなく、コミュニティ（共同体）でできることを考えてみると良いかもしれません。

（経営経済学部経済学科准教授　早川　公）

大阪国際学園教員紹介　：　No. 0006

専門分野：経済人類学・応用人類学
まちづくり論
地域志向教育論

大阪国際大学 経営経済学部経済学科
早川　公　准教授

趣味:マンガを読むこと　特技:何かを企画すること
長女（6歳）と長男（2歳）の子育てにかかりきりの毎日です。その奮闘の数年間を『研究者の子育て』というエッセイ本に書きました。人と何かを企画するのが好きで、学生時代に欽ちゃんの仮装大賞に出場したことは、今の仕事観にもつながっています。